

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：24303

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22592398

研究課題名（和文） 新人看護師のためのコミュニケーション技術実践プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of Nursing Communication Skills in a Practice Program for Novice Nurses

研究代表者

岩脇 陽子（IWAWAKI YOKO）

京都府立医科大学・医学部・教授

研究者番号：80259438

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、新人看護師のためのコミュニケーション技術を実践的に向上させる教育方略として、双方向学習教材 PF-NOTE を活用した研修を展開し、その成果を明らかにすることである。調査時期は 2011 年 10 月である。調査対象者は新人看護師 130 名である。研修終了後に自己記入式の調査票を配布した。研修における効果的な点は自由記述を求め、質的に分析した。

119 名を分析対象とした。研修の成果として、4 つのコアカテゴリが抽出された。新人看護師は、【PF-NOTE によるコミュニケーションの客観的評価】や、【実際の演示・他者との知識の共有による気づき】により、【自己のコミュニケーションを振り返る機会】につながり、【様々な看護場面におけるコミュニケーションの方法の発見】をしていた。

これらから、研修は新人看護師にとって様々な看護場面に必要なコミュニケーション技術の方法を学ぶ機会になっており、有効な教授方法であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：In this study, we evaluated the usefulness of the PF-NOTE interactive learning material in performing a nurse training session. The study was conducted at a training session for 130 new nurses in late October 2011, where the PF-NOTE was used as an educational tool for the development of nursing communication skills. A self-administered questionnaire sheet was distributed to the new nurses after the training session, and their responses, including free-written descriptions regarding the benefits of such training, were qualitatively analyzed.

From the responses of 119 new nurses, 4 core categories of benefits were identified. Using the PF-NOTE, the new nurses had "an opportunity to reflect upon self-communication" through the "objective rating of communication by PF-NOTE." They reported that the device enabled "sharing of knowledge by actual communication and interaction with other nurses." The training session was considered an opportunity for "discovery of the methods of communication in various nursing settings requiring communication skills in nursing practice."

These findings suggested that training with the PF-NOTE is an effective educational approach, providing new nurses with an opportunity to learn communication skills appropriate for various nursing settings.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
2013年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学 看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育、コミュニケーション技術、プログラム開発、新人看護師、看護技術
言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、双方向学習教材

1. 研究開始当初の背景

看護師が効果的な看護を実践する上で、患者との人間関係を形成するためのコミュニケーション技術は欠かせない。複雑な臨床場面において、患者と如何に人間関係を形成させていくか、看護師には効果的なコミュニケーション技術の習得が求められている。このように看護実践力として、患者との人間関係の成立のためのコミュニケーション技術の能力を育成していくことは重要な課題である。そのため、効果的なコミュニケーション技術の習得のための実践的な教育方法の開発は急務である。

しかしながら現実的には、看護教育においては講義と演習および臨地実習はうまく連関せず、実践的で体系的な教育方法は確立しているとは言えない。看護基礎教育では臨地実習の場面で実際に役に立つコミュニケーション技術を習得することが必要である。

新人看護師の継続教育においては、より多様な状況にある患者に対するコミュニケーション技術を育成していくことを視野に入れなければならない。実際海外では、がん患者、高齢者、集中治療患者、障害をもつ人々とのコミュニケーション技術教育の必要性

が指摘されている。このようにコミュニケーション技術の実践プログラムの開発が必要である。

2. 研究の目的

本研究は、看護実践としての新人看護師のためのコミュニケーション技術実践プログラムを開発し、その有用性を検証することである。

(1)看護基礎教育における臨地実習に活用できるコミュニケーション技術を向上させる教育プログラムを作成し、それらを評価する。

(2)継続教育における患者とのコミュニケーション技術を育成する教育プログラムを開発し、それらを評価する。

3. 研究の方法

(1) 調査時期は2010年6月であり、看護学士課程1年生83名を対象に授業終了後に自己記入式の調査票を配布した。また効果的な点は自由記述を求め、質的に分析した。

(2) 調査時期は2011年10月である。調査対象者は新人看護師130名であり、研修終了後に自己記入式の調査票を配布した。研修における効果的な点は自由記述を求め、質的に分析した。

4. 研究成果

(1) 78名から回答が得られ分析した。学習目標の到達度では、看護師のよいコミュニケーションのあり方を考える 66.7%、ビデオでよい点を指摘する 65.4%等がよくできたとしていた。入院時コミュニケーションの体験での気づきでは、患者が安心できるようなコミュニケーションをとる必要性 82.1%、看護師の姿勢・表情・視線が患者に与える影響 79.5%等がよくできたとしていた。学習効果では、PF-NOTE で検査時の好ましいコミュニケーションを観た 76.9%、前で演示した学生のコミュニケーションを観た 74.4%等がとても効果的としていた。講義内容は将来に役立つ 84.6%、講義から新しい知識を得た 69.2%、PF-NOTE を用いた演習は興味を持てた 64.1%等で「とてもできた」としていった。

授業の学習成果として、4つのコアカテゴリが抽出された。学生は、【PF-NOTE を活用したコミュニケーションの客観的評価】や、【患者・看護師体験からのコミュニケーションの気づき】により、【自己のコミュニケーション傾向と改善点を把握】することにつながり、【看護におけるコミュニケーション技法の重要性】を学ぶ機会となっていた。

これらから、今回開発した授業プログラムは看護学生にとって看護に必要なコミュニケーション技術の重要性に気づく機会になっており、有効な教授方法であった。

(2) 新人看護師 119名を分析対象とした。研修目標の到達度では、看護師に必要なコミュニケーション技術を理解 95.0%、医療チームに必要なコミュニケーションを理解 91.6%等であった。研修の満足ではコミュニケーション技術の応用の実践 90.8%、コミュニケーション技術の基礎の実践 90.7%等であった。研修での効果では、疼痛を有する患者とのコミュ

ニケーション 92.4%、検査の説明のビデオを観たこと 89.0%等であった。研修全体の評価では、自己のコミュニケーションを振り返る 97.5%、研修内容を理解する 97.4%、研修は今後役立つ 93.3%等であった。

研修の成果として、4つのコアカテゴリが抽出された。新人看護師は、【PF-NOTE によるコミュニケーションの客観的評価】や、【実際の演示・他者との知識の共有による気づき】により、【自己のコミュニケーションを振り返る機会】につながり、【様々な看護場面におけるコミュニケーションの方法の発見】をしていた。

これらから、開発した研修プログラムは新人看護師にとって様々な看護場面に必要なコミュニケーション技術の方法を学ぶ機会になっており、有効な教授方法であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

① 岩脇陽子, 滝下幸栄, 松岡知子, 山本容子, 室田昌子, 村瀬由貴(2011): 学習教材を活用したコミュニケーション技術教育における学習効果, 京都府立医科大学看護学科紀要, 査読有, 21:17-28.

② 岩脇陽子, 山本容子, 室田昌子, 滝下幸栄, 松岡知子, 武山雅志(2012): 双方向学習教材を用いた新人看護師のためのコミュニケーション技術実践教育における成果, 京都府立医科大学看護学科紀要, 査読有, 22:7-18.

③ 柴田明美, 岩脇陽子, 新垣洋美, 浜崎美子, 小松美幸(2012): 新人看護師が求める先輩看護師の関わり, 京都府立医科大学看護学科紀要, 査読有, 22:75-85.

〔学会発表〕（計 9 件）

①岩脇陽子, 藤本早和子, 関川加奈子(2011):
がん疼痛看護「基礎講座」の教育効果—受講直
後の看護師の評価から—, 第 25 回日本がん看
護学会学術集会, 神戸市, 2 月.

②岩脇陽子, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子,
室田昌子(2011):双方向学習教材 PF-NOTE を
活用した看護学生のコミュニケーション技術教育
の取り組み, 第 37 回 日本看護研究学会学術
集会, 横浜市, 2 月.

③岩脇陽子, 藤本早和子, 関川加奈子, 山本
容子, 滝下幸栄, 松岡知子, 室田昌子, 村瀬由
貴(2011):がん疼痛を有する患者とのコミュニケ
ーション技術教育の試み, 第 43 回 医学教育学
会大会, 広島市, 7 月.

④岩脇陽子, 滝下幸栄, 松岡知子, 山本容子,
室田昌子, 村瀬由貴, 日紫喜正典, 桑原毅
(2011):双方向学習教材 PF-NOTE を活用した
コミュニケーション技術教育における学習効果,
第 43 回医学教育学会大会, 広島市, 7 月.

⑤柴田明美, 岩脇陽子(2010):新人看護師と先
輩看護師との関係及び職場環境に関する調査,
第 20 回日本看護学教育学会学術集会, 大阪
市, 8 月.

⑥岩脇陽子, 山本容子, 滝下幸栄, 松岡知子,
室田昌子(2012):新人看護師を対象としたコミュ
ニケーション技術教育の試み, 第 44 回日本医
学教育学会大会, 東京, 7 月.

⑦岩脇陽子, 滝下幸栄, 松岡知子, 山本容子,
室田昌子, 福永たか子, 光本かおり, 岡薫, 曾我
典子, 小城智圭子(2012):病棟看護師に必要な
退院支援におけるコミュニケーション技術の実践

内容の検討, 第 44 回日本医学教育学会大会,
東京, 7 月.

⑧岩脇陽子, 滝下幸栄, 松岡知子, 山本容子, 室
田昌子, 村瀬由貴(2012):新人看護師が体験して
いるコミュニケーション技術の現状と課題, 第 32
回日本看護科学学会学術集会, 東京, 12 月.

⑨岩脇陽子, 滝下幸栄, 松岡知子, 山本容子, 室
田昌子(2012):新人看護師の疼痛を有する患者
とのコミュニケーション技術の研修前後にお
ける効果, 第 32 回日本看護科学学会学術集
会, 東京, 12 月.

〔図書〕（計 1 件）

① 岩脇陽子(2012):内容分析による質的研究,
これからの看護研究—基礎と応用—, 小笠
原知枝, 松木光子編, 東京, ヌーヴェルヒロ
カワ, 217-230.

〔その他〕
ホームページ等

岩脇陽子（2012）：新人看護師のためのコミュ
ニケーション技術実践プログラムの開発,
平成 22～24 年度科学研究費補助金（基盤研
究（C））,研究成果報告書,A4 版,82 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩脇 陽子 (IWAWAKI YOKO)
京都府立医科大学・医学部・教授
研究者番号：80259438

(2) 研究分担者

滝下 幸栄 (TAKISHITA YUKIE)
京都府立医科大学・医学部・准教授
研究者番号：10259434
松岡 知子 (MATHUOKA TOMOKO)
京都府立医科大学・医学部・講師
研究者番号：90290220
山本 容子 (YAMAMOTO YOKO)
京都府立医科大学・医学部・講師
研究者番号：00321068

室田 昌子 (MUROTA MASAKO)

京都府立医科大学・医学部・助教

研究者番号：80610641

武山 雅志 (TAKEYAMA MASASHI)

石川県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50381695

(3) 連携研究者：なし

(4) 研究協力者

藤本 早和子 (FUJIMOTO SAWAKO)

京都府立医科大学附属病院・看護師長

柴田 明美 (SHIBATA AKEMI)

京都府立医科大学保健看護研究科・院生

新垣 洋美 (SHINGAKI HIROMI)

京都府立医科大学保健看護研究科・院生